

2005
(平成17年)



まつざき

6
No. 493



主な内容

- ◆議会の構成……………P 2
- ◆町政懇談会……………P 3
- ◆海岸に面した土地の規制…P 4
- ◆地域経済懇談会……………P 5

厳しさのなかにも爽やかな汗

自衛隊員による消防団員規律訓練が行なわれました。

(5/15)

第2回臨時会

議長に 稲葉 昭宏 議員
副議長に 斉藤 貞一郎 議員

第二回臨時会が四月二十八日に開催され、正副議長をはじめ各委員会の構成や役職等が決まりました。
新しい議会構成は、次のとおりです。

議会の同意によるもの

一部事務組合
議会議員

◎西伊豆広域消防組合
稲葉 昭宏・菊池 純平
加賀 良雄

監査委員

高橋 和泉
◎伊豆つくし学園組合
鈴木 源一郎・斉藤 重

◎第一常任委員会
委員長 加賀 良雄
副委員長 齊藤 重
委員 武田 勝彦
委員 石田 正光
委員 鶴田 勝弘

議会の推薦によるもの

◎西豆衛生プラント組合
稲葉 昭宏・斉藤 貞一郎
武田 勝彦

◎議会運営委員会
委員長 加賀 良雄
副委員長 齊藤 平治郎
委員 齊藤 重
委員 一瀬 寿一
委員 鶴田 勝弘
委員 齊藤 貞一郎

農業委員

鶴田 勝弘
◎共立湊病院組合
遠藤 美和子・一瀬 寿一

◎議会広報編集委員
委員長 齊藤 貞一郎
副委員長 加賀 良雄
委員 齊藤 平治郎
委員 齊藤 重
委員 石田 正光
委員 関 唯彦



斉藤 貞一郎 副議長



稲葉 昭宏 議長

このたび議長に推挙され、責任の重さを痛感しております。市町村合併を推進してきた合併特例法が三月三十一日で期限切れを迎え、我が町は「平成の大合併」への道を選ばず、単独の決断をしました。国が決定した三位一体改革は、当町のような自主財源の乏しい自治体にとって

議会の使命

議長 稲葉 昭宏

は、決して楽観できるものではないでしょう。自ら生き残るための厳しさは、これからが正念場になると思います。議案一つ一つに深い議論を尽くし議会としての機能を十分に発揮していくよう努力する所存です。また、行政へのチェック機能も議会の大きな役割です。無意味な喧嘩を避け高い理念と良識を持って町民の皆さんから信頼と期待を持たれる議会になるよう頑張りたいと思います。

町政懇談会

— 今後のまちづくりに皆さんのご意見等を活かしてまいります。

町内五箇所で実施した町政懇談会が終了しました。参加していただいた皆さんから貴重なご意見やご質問がありました。

今回は全体を通して多かったご質問やご意見についてまとめました。皆さんのご意見等まちづくりに活かしていきますので、よろしく願います。

行政改革について

(問) 行政改革について、目標がみえないがどうか。

(答) 時代に即応した能率的・経済的な行政運営を目指します。

(意見) 行政改革の一環として、町職員の意識改革だけでなく、住民の意識も変わるべきだと考えます。

町財政について

(問) 西豆三町村合併が崩れ、単独路線になったが実際問題どうなのか。

(答) 町村合併については、現時点ではなんとも言いようがないというのが正直なところですが、現実問題として財政運営が厳しくなっているのは確かです。近い将来、合併しなさいという県の指導があるかも知れませんが、その時はまた皆さんと相談したいと考えています。

(問) 単なる削減案でなく、厳しい財政状況でもここは力を入れまますという前向きな姿勢で予算ができないのか。

(答) 将来を見据えた予算案ということですが、ここ二、三年は体力づくりの時期と考え、緊縮型予算を組みました。

(問) 地区への補助金カッターでコミュニティ活動に支障がないか。

(答) 一部休止するものもありますが、概ね補助は継続します。

産業対策について

(問) 町に就職口が無く、若い世代が町に残れないことで、少子高齢化が進んでいる現状についてどう考えているか。

(答) 人口の減少問題は大変難しい問題です。町内に大きな企業がなければ良いのですが、産業としては観光に頼らざるを得ないというのが実情です。観光客の誘致による観光産業の振興を考え、海上交通ネットワークづくりの拠点といえる新港湾の建設に力を入れたと考えています。これによって町内の観光施設や業者に活気が出てくれば人口減少も食い止められるのではないかと考えています。

(問) 那賀花畑の予算を継続性のある事業に回してはどうか。また、単発のイベントはあるが、一定期間お客を呼べるようなイベントを考えるべきではないか。

(答) 知名度があり、集客率も高い事業ということで、花

畑は継続して実施します。また、県道沿いに続く田んぼも観光資源と考えており、休耕田対策も進めていきたいと考えています。

教育関係について

(問) 中高一貫教育と西豆地域人材育成推進会について説明してください。

(答) 西豆教育研究会を立ち上げ、中高一貫教育に向けて動きだしました。中高一貫教育に向けて西豆地域に残る人材を育てるには、どのような学科やコースが必要か、地域の皆さんのご意見やご要望を反映させていこうと人材育成推進会を立ち上げます。

(問) 中学校の改築、耐震化は早急に対処すべきだと考えるがどうか。

(答) 中学校の改築については諦めたわけではありません。財政的な理由で延期しているだけで、できるだけ早く実施したいと考えています。

防災関係

(問) 町の中心部に水門がなく、津波の被害が予想される。先のスマトラ沖地震を教訓に早い時点で水門設置をお願いしたい。

(答) 那賀川河口水門については、地域住民の皆様や事業所の皆様の了解を得て実施したいと考えています。南川水門については、設置位置も概ね決まり、地域の皆さんの要望書も出ていますので、国や県と調整しながら進めていきます。

(問) 新港湾について、旅客誘致の面だけでなく、災害時の防災港としての使用も考えて、当初の計画どおり完成させてもらいたい。

(答) ご指摘のとおり、災害時に想定される物資や人員の輸送ルートは海上交通になると思われまます。なるべく早く防災船「希望」が接岸できる状態に整備されるよう県に要望してまいります。

海岸に面した土地の規制について

伊豆西南海岸は、西伊豆町
田子島から松崎町を経て、下
田市と境を接する南伊豆町鹽
（たらい）岬までの延べ延長
六十キロメートルの海岸で、
文化財保護法で昭和十二年に
国の名勝に指定されました。

また、伊豆半島の海岸線全
域は、昭和三十年に自然公園
法によって国立公園に指定さ
れています。

町内で海岸に面した地域に
ついては建物の新築や増改築
木の伐採や土地の造成などに
ついては国・県の許可が無い
と出来ません。

海岸線の景観を守るため、
町の観光資源を守るためにも
指定地域にかかりそうな土地
で建物の新築や増改築、木の
伐採をするなど現状を変更す
る前に、役場担当窓口で確認
をお願いします。担当窓口等
は次のとおりです。

●名勝伊豆西南海岸

豊かな海岸線と美しい自然
に恵まれた景勝地を後世に残
すため、指定地域で建物を建
てたり、木を伐採するなど現
状を変更しようとする場合は、
文化庁もしくは静岡県教育委
員会の許可申請が必要になり
ます。詳しくは教育委員会（四
二―三九七一）までお問い合わせ
ください。

松崎町の指定地域（小字）

江奈地区
釜之本山、巨鯛島及び外部
山全部
道部地区
横道、横道上、室全部
岩地地区
日尻望、白根道上、白根、
白根道下、萩谷濱、丸山廻、
丸山、萩谷、日影平、大久
保、大久保嶽、細水、萩谷
道、清水上、清水、前濱、
西ノ田、船附濱、日和山、

古浦濱、古浦濱上及び獄澤
全部

石部地区
アゼ、附ノ浦、中附ノ浦、
上附ノ浦、小舟及び黒崎全
部

雲見地区
木ヶ下、三競、藪ラ磯、長
ヶ磯、雲見嶽、向山、角谷
見、眞磯平、平浪、外山、
眞林、長ヶ崎及び小磯平全
部

●国立公園

土地の所有形態に関わりな
く、優れた自然の風景を保護
しようとするもので、町内で
は海岸線に面した土地が指定
されています。許可が必要な
ものや事前申請が必要なもの
がありますので、詳しくは企
画観光課（四二―三九六四）
または、賀茂農林事務所（二
四―二〇八二）までお問い合わせ
ください。

総勢三百九十五名で田植え

赤根田村百笑の里、田植祭

五月二十一日、二十二日の
両日、石部棚田で田植え祭が
行われ、地元の方々や棚田
会員等が田植え作業で汗を流
しました。

石部棚田「赤根田村百笑の
里」は、荒廃して藪になつて
しまった山田を何とか復元で
きないかということで、平成
十一年から県の補助を受けて
整備を進め、平成十四年には
約一ヘクタールを水田として
復元し、オーナー制度を導入
した都市との交流事業の拠点
としてスタートしました。

情緒豊かな景観と文化的価
値とともに都市住民との交流
が評価され、静岡県都市景観
賞「優秀賞」や半島地域活性
化優良事例表彰「半島地域振
興対策協議会長賞」、しずおか
観光大賞「大賞」を受賞して
います。



地域経済懇談会開催



ではありますが、少しでも地域経済を活性化する方法を検討するため、このほど町内各種団体の代表九名と町長以下町関係者との「地域経済対策懇談会」を開催しました。

懇談会では、町の行財政の現状を説明した後、意見交換を行いました。各団体代表者からは、

我が国の経済は、一部の産業を除いてまだまだ景気の停滞感が続いており、それに伴い地域経済も依然として低迷している状況です。

松崎町は、単独での行財政運営の道を進むことになりましたので、今後は安定した財政運営が重要課題となります。このことから、平成十七年度予算は、人件費の削減や団体への補助金削減等大幅な事業の見直しを行い、超緊縮型の予算編成になりました。このように大変厳しい状況

一、地場産品を使用した素晴らしい創作料理が出来ても、町内外へのPRができないので関係者の協力をお願いしたい。
二、これからの町づくりは先進事例を真似るのではなく、視点を変える必要がある。そのためには考え方が柔軟な若い人達の集まりを仕掛けることが重要である。
三、商工会青年部で実施している「ぼくらの街が美術館」はとても評判が良いので、更に工夫拡大して積極的に実施して欲しい。

四、大規模花畑は地域の協力をお願いすること、更に工夫するよう努力して欲しい。
五、個人の耐震化工事には補助金があるが、宿泊施設には融資制度のみで補助金が無いため、固定資産税の減免は考えられないか。等々活発なご意見、ご要望が出されました。

町ではこの懇談会を随時開催し、有効な施策や事業については今後の町づくりに取り入れていくことにしています。なお、この懇談会に出席をお願いした団体は次のとおりです。

- 商工会
- 観光協会
- 旅館組合
- 料飲組合
- 漁業組合
- 建設業組合
- 三島信用金庫松崎支店
- 伊豆太陽農協西部支店
- 伊豆森林組合

ふるさとガイド松崎発足



地域にある観光資源を、訪れたお客さんに知っていただくこと、昨年から観光協会が中心になってガイド養成に取り組んできました。

ガイドコースは、伊豆の長八美術館前を出発して、なまこ壁通り、ときわ大橋、明治商家中瀬邸、仲宿通りを廻る約一時間ほどのコースになっています。さっそくゴールデンウィークにはお客さんを案内し、東京から来られた方は「ガイドしていただいて松崎の町をより深く知ることができました。松崎は町歩きするのに最高のところですね。」と話されていました。

このほど、松崎町のボランティアガイド「ふるさとガイド松崎」が発足しました。会員数は二十一名で、会長には平馬学さんが選任されました。松崎町にはロケやスケッチの題材になる風景が多く、なまこ壁の建物・蔵など歴史的建造物も多く残されています。

お問い合わせは、松崎町観光協会（四二一〇七四五）まで。

まちのびきり

渓流で大物狙う 池代渓流釣大会

五月四日（水）第十九回池代
渓流釣り大会が開催され、町内
外から百名あまりの太公望が集
まり、腕を競いました。

当日は晴天に恵まれ、気温も
汗ばむ程に上がり、参加者は、
五軒屋橋から平戸橋上までの約
七百メートルの区間で釣り糸を
垂らし、大物を狙いました。



絶景とツツジを堪能 高通山つつじ祭り

五月一日から二十二日まで、「第
三回高通山つつじ祭り」が開催
されました。

昨年整備された長者ヶ原と
ともに、山つつじの群生地とし
て有名ですが、眼下に広がる海
原と雄大な富士山が一望できる
という点で、多くの方が山頂
を目ざしていました。



旬のカツオを味わう 岩地大漁まつり

五月十五日（日）、岩地海岸で
「第二十九回岩地温泉大漁ま
つり」が開催されました。

当日は、心配された天候も回
復し、多くの観光客で賑わいま
した。
訪れた皆さんは、会場で振舞
われた郷土料理「ニアイナマ
ス」や刺身、うしお汁などの海
の幸を堪能しました。



なまこ壁

平成十六年四月に「松崎
蔵つくりたい(隊)」が誕生
しました。町内の貴重な文
化遺産である「なまこ壁の
土蔵」を見直し、その保全
保護に拘わることができな
いだろうか、という思いを
持つ人達の集まりです。

実際に荒壁、中塗り、壁
塗りを体験し、町内で解体
されることになった土蔵
から保存しておきたい恵
振板や熨斗止めの漆喰鏝
絵を切り取って、補修・
保存することから土壁
(なまこ壁)の補修まで
ずぶの素人達が技術指導
を受けながら実施してい
ます。

土壁の補修については
平瓦部分だけでなく、
「なまこ壁」内部の土の
手入れまでする徹底ぶり

である。

それぞれ仕事を持った人
達の集まりで、休日を利用
しての活動(奉仕)を続け
ています。活動している姿
を何度か目にしましたが、
真剣に作業に取り組む姿に
敬意と感謝をこめて紹介し
た次第です。

松崎町長

深澤 進



町長室からこんにちは ④

栄えある叙勲

「旭日單光章」

齋藤傳吉さん（八十八歳）



四月十九日（火）、高齢者叙勲で岩地の齋藤傳吉さんが旭日單光章を受賞しました。

齋藤さんは、昭和五十四年四月に松崎町議会議員選挙に初当選し、以来三期十二年にわたって活躍された他、町史編さんにおいても第一巻から第七巻までの資料編さんを行うなど多大な貢献をされました。

総務大臣から 感謝状

五月十二日（木）、東区の近藤二郎さんに、長年にわたって行政相談委員として活躍した功績で、総務大臣から感謝状が贈呈されました。

近藤さんは、平成七年に行行政相談委員に任命されて以来八年間、町民からの様々な相談にのって問題の解決に尽力されました。



松崎文芸

— 短歌 —

百年も眠りてゐるや姑ははの夜具長持のなか唐草模様

船津 きく

待ち兼ねし株のあじさい大川の土手の斜面に咲き始めたり

佐藤 丈夫

中学から松崎を離れ居し長男の知らざる一面を見る思ひする

坂倉 のぶ

大空に自在に動く雲の群ときには魔女の形にかげる

笹本 藤子

伐られたる銀杏にまつはる思ひ出がよみがへるときにつる

淋しき
高橋 浪子

そばがきは祖母の味なりそばがきと言ひつつ温きを口にして

あつ
中村 宣子

束の間の気ばらしとして唄ひつつ菜畑を飛ぶ蝶になりきる

山本 しづ子

天よりの日脚のびきて西伊豆の海に光の緞帳おりる

平馬 文枝

21世紀 松崎町三つの実践運動「あいさつ・返事・後しまつ」

町の人口と世帯

(平成17年5月1日現在)
()は前年比
総人口 8,594人 (-9人)
男 4,098人 (+1人)
女 4,496人 (-10人)
世帯数 3,139戸 (+7戸)
転入 27人 転出 26人
出生 3人 死亡 13人

町の交通事故

平成17年5月15日現在
()内は前年対比
人身事故 15件 (-7)
物損事故 40件 (-7)
死者 0人 (±0)
傷者 24人 (-6)

戸籍だより (4月分)

おめでとうございます(出生)

地区	名前	性別	保護者
江奈3	咲哉	男	鈴木吉嗣
江奈2	アリ有紗	女	池野勇
宮内	ショウ修都	男	仲村周作

※この欄に掲載を希望されない場合は、お申し出ください。

おくりやみ申し上げます(死亡)

地区	氏名	年齢	届出人
岩地	齋藤ふみよ	82	為助
金沢	佐藤ふじゑ	84	美晃
石部	高橋孝雄	85	よし
小杉原	鈴木一笑	80	隆
吉田	山本久男	85	清矩
東区	土屋朝子	94	内田照子
江奈2	齊藤鶴江	84	利彦
池代	山本米	93	昇
江奈2	藤井梅雄	77	てつ子
池代	菊池もよ子	89	鈴木多恵子
建久寺	土屋とく	83	由光
江奈4	菊地茂市	86	茂
江奈2	土屋喜久枝	94	久男

保健師だより 体内リズムは 生活リズムから

幼児健診を実施していて、生活リズムが夜型にずれてきていることを感じます。

平成十六年度の幼児健診の結果を見ると、一歳六ヶ月児でも夜十時までに寝ない子が二割以上います。自ずと朝起きる時間も遅くなり、体内時計を調整する貴重な朝の時間が過ぎてから起きることになります。

体内リズムが未熟で、生活しながら整えていく乳幼児期にとってこのような環境は、望ましいものではありません。

よく聞いてみると、父親の仕事の都合で遅くなってしまふ、寝かそうとしてもテレビが付いているとなかなか寝ない等家庭の事情でお子さんの睡眠が左右されている様子がうかがえます。

身長を伸ばしたり、情緒を安定させる成長ホルモンは夜寝てから二時間後に体内に多く分泌され、午後十時頃がピークとされています。

子どもが健康に育つ環境や条件を整えてあげられるのは親しかいません。朝、十分ずつ早く起こしてみてください。

学校ひろば

(48)

松崎中学校

☎四二一〇一四三

「学校給食は今」

午前十一時、松崎中学に隣接する共同調理場から、おいしそうなおいが漂い始めます。「今日は何。」「このおかずはもつと量を増やして。」「今月はカレーはいつでてくるの。」「給食に関心のある生徒がとてまたたくさんいます。調理場の中では子ども達に喜んでもらおうと、毎日奮闘が続いています。

学校給食は年間百八十回ですが、成長期の子ども達にとって、その一回一回が大切な食事です。かつて栄養補給、単なる昼食とされてきた給食は、子どもサイドに立ったものへと変化してきました。昨年度は、小・中学校の各クラス一回ずつリクエスト給食を行いました。自分達で献立を考えることで、給食により関心をもってもらおうだけでなく、給食は主食・主菜・副菜の組み合わせでできていることを知ってもらうのが狙いです。

